

ガザ地区の実態（1）

（イランラジオ放送 2014.08.25（月）23:14）

ここ10年、ガザ地区ほど国際世論やメディアで繰り返し話題に上る地域は、ほとんどないと思われます。ガザという言葉は、封鎖、攻撃、難民、空爆といったことばや、防衛手段を持たない民間人の映像を想起させるものです。この地域の人々の孤立や抑圧は、私たちも知っているとおりで。私たちは繰り返し、テレビやウェブサイトで、ガザの人々の遺体の写真や、半壊し、医療設備のない病院におけるガザの負傷者が映し出された画像に、心をいためています。しかしこのような画像は別として、ガザ地区とはどのような場所なのでしょう？この疑問の回答こそは、今回のテーマであり、それはつまりガザの人々の日常生活を知ることにあります。今後数回にわたり、皆様と共にガザ地区を見ていきたいと思えます。このガザ地区は封鎖下に置かれている影響で、ガザ住民を支持し、同情する人々にすら知られていない状態にあります。それでは、まずはじめにガザ地区の歴史について簡単にお話したいと思います。

ガザ地区は4000年にさかのぼる、常に紆余曲折の歴史を歩んできました。ガザ地区は東西の世界を結ぶ要衝にあることから、紀元前2000年からギリシャ人、バビロニア王朝、アッシリア、アケメネス朝などのイランの諸王朝、ローマなどがここを掌握してきました。後にイスラム教徒のアラブ人が2世紀の間ガザを治めました。十字軍時代の2世紀間もしばしばエジプトやシリアの為政者、時にはヨーロッパのキリスト教徒による王朝が形成され、後にオスマン帝国、ナポレオンが率いるフランスやエジプトのムハンマドアリー王朝が、ここを支配してきました。

しかし、この地域の嘆かわしい近代史は、第1次世界大戦でオスマン帝国がイギリスに敗北したことにより幕を開けることとなります。連合国は1920年、オスマン帝国の領土の一部として残っていたパレスチナをイギリスの委任統治領としました。さらには1947年11月、設立されて間もない国連が決議を採択し、パレスチナをパレスチナ人とシオニストとの間で分割したのです。またその1年後には、イギリスの委任統治が終了し、シオニスト政権イスラエルの成立が宣言されたことを受け、シオニストとパレスチナ人との間で第1次中東戦争が勃発しました。この戦争で、エジプトはガザ地区の管轄権を失い、さらに1967年には第3次中東戦争の敗北を受けて、ガザ地区をシオニスト政権に引き渡しています。シオニスト政権は1993年、即ちパレスチナ解放機構との間にオスロ合意を締結するまで、この地域の管轄権を掌握していました。シオニスト政権はこの年、ガザからの撤退をはじめましたが、一方、シオニスト入植地から住民を引き上げることはありませんでした。その後2005年夏、シオニストの住民と軍のガザ地区からの引き上げが完了しました。こうして、ガザ地区をパレスチナ人に委任統治させることにより、パレスチナ人居住区をヨルダン川西岸とガザ地区の2つに完全に分割するというシオニスト政権の念願が実現したのです。

シオニストが撤退したあとに、パレスチナ人にはガザ地区の363平方キロメートルの土地が残されましたが、この地域はこれまでにシオニスト政権の空爆やミサイル攻撃を頻繁に受けています。また、ガザ地区は地中海沿岸の南東部に位置し、エジプト北部のシナイ半島の北東部と接しています。さらに、この地区は長さ40キロ、幅が8キロから11キロの長方形の形をしています。この地区で最も標高が高い地点は、アブアウダという場所で海拔105メートルで、またガザ地区は40キロの海岸線を有しています。この地域とシオニスト政権の占領地は51キロの境界線で、エジプトとは

11 キロの境界線で接しています。

ガザ地区は気候的に乾燥地帯で、夏は暑く、冬は温暖であり、年間降雨量は平均 300 ミリとなっています。このため、ガザ地区は常に旱魃の危機にさらされており、水資源が不足していることは、ガザ地区の人々の生活上の問題のひとつとみなされています。1993 年のオスロ合意では、この地区の水資源の管理はシオニスト政権に委任されています。ガザ地区の人々は飲料水の確保において、シオニスト政権の占領地南部を水源とし地中海に流れ込む、ワディガザという河川に強く依存しています。シオニスト政権イスラエルが、飲料水の一部をこの水資源から確保しており、またワディガザ川の管理権を掌握していることから、ガザ地区の人々はより厳しい生活を強いられているのです。

ガザ地区の人々は、町や村、あるいは難民キャンプで生活しています。ガザ地区は、この地区最大の規模と人口密度を有する町・ガザで有名です。ガザ地区の 5 つに分けられた区域のうち、ガザの町はその名の通りガザという区域に属しています。この町は 1993 年までの 26 年間、（シオニスト政権）イスラエルの占領下に置かれていました。現在、45 平方キロメートルの面積を有するガザの町には 50 万人が住んでおり、人口密度の点で世界第 6 位となっています。ガザ地区にあるその他の町には、ジャバリアやナザレがあります。

そのほかのガザ地区の区域である、北ガザ区域にはベイトラヒヤやベイトハヌンといった町が存在します。ベイトラヒヤという名前の由来は、この町を取り巻く砂漠地帯にあります。この町はイチジクで有名であり、シオニスト政権が初めて白リン弾により攻撃したパレスチナ人の学校は、この町にあります。また、もう 1 つの町ベイトハヌンも、インフラの大部分がシオニスト政権の攻撃により破壊されており、住民の九割を難民が占め、しかもその 65% が 14 歳以下です。一方、この区域にあるアルアターティーなどの村落は、ガザ地区のほかの地域とは異なり、もともと住んでいた人々が人口の大部分を占めています。シオニスト政権は、この地区をハマスの強固な要塞のひとつであるとみなしています。

また、ガザ地区にはデイロルバラフという区域もあり、ここは赤いナツメヤシとやしの木で有名です。シオニスト政権は、ブルドーザーを使用して少なくとも、これらの樹木の 18% を破壊しました。デイロルバラフの人々は、常にシオニスト政権に対するパレスチナ人の抵抗運動・インティファダに参加しており、このためシオニスト政権は繰り返しこの地を攻撃しています。さらに、この地区にはザワーイダという町もあります。

さらに、ガザ地区にはハンユニスという自治体があり、そして同じ名前の町が存在します。ハンユニスは、ガザ地区第 2 の都市とみなされており、パレスチナ・イスラム抵抗運動ハマスの重要な拠点となっています。ここには、科学技術大学が設置されているほか、この自治体にはバニーソヘイラという町もあります。

ガザ地区の最南端には、ラファという自治体が存在し、その中心都市はラファとなっています。この区域には、ガザ地区唯一の空港であるヤーセル・アラファト国際空港が存在します。この町の検問所はエジプトのシナイ半島に通じており、世界的に有名です。

しかし、ガザの人々が居住しているのは、町や村だけではありません。ガザ地区の人口の多くはパレスチナ難民が占めており、彼らは難民キャンプで生活しています。

<http://bit.ly/luevjqf>

ガザ地区の実態（２）

（イランラジオ放送 2014.09.01（月）23:13）

多くのパレスチナ人難民は、「ムハッイエム」と呼ばれている難民キャンプで生活しています。もっとも大きな難民キャンプはジャバリアの難民キャンプで、ガザ自治区のジャバリアの町の近郊にあります。衛生関連施設がひとつ、食糧分配センターがひとつしかない、この難民キャンプで、11万人が生活しています。ガザ地区南部、ラファの難民キャンプも、10万4千人が生活しており、パレスチナ難民キャンプで大きなもののひとつとなっています。この難民キャンプ2つの中に、2つのシフトで運営している25の学校があり、若年層の教育的需要を満たしています。

3番目に規模が大きなパレスチナ難民キャンプは、ガザ近郊の地中海岸にある、アルシャルティ難民キャンプです。面積1平方キロメートルで、最低限の生活しか出来ないアルシャルティ難民キャンプは、8万7千人の難民を受け入れています。南部ハンユニスにも、ハンユニス難民キャンプという難民居住区域があります。この7万2千人が住む難民キャンプの学生は、2つのシフトで運営している25の学校に通っています。そのほか、デイロルバラフ自治区にある、6万6千人が住むヌシーラト難民キャンプがあり、ここも人口密度の高い難民キャンプです。また、デイロルバラフの別の難民キャンプ、デイロルバラフ難民キャンプは、1平方キロメートルの小さな面積の中に2万1千人が住んでいます。そのほか、この自治区のアルマガーズィー難民キャンプも1万2千人が、小さな土地の中で生活しています。そのほかのガザ地区の難民キャンプには、アルブリージ難民キャンプがあり、ここには3万4千人が500平方メートルの小さな場所に住んでいるのです。

難民キャンプでの生活は大変厳しく、住民は人口密度が高く、居住空間がない中、水の不足、とりわけ飲用に適した水の不足、失業率の高さ、大きな貧困に苦しみながら生活しています。アルブリージ難民キャンプの住民も、他のガザ地区の難民キャンプのように、電力不足の中、しばしば停電の中で生活しています。ガザ地区の難民キャンプで生活しているパレスチナ難民の多くは、シオニスト政権軍の攻撃、あるいはこの政権の圧政により、自分たちの住む場所を失っています。たとえば、2008年から2009年にかけて行われたガザ地区への攻撃で、シオニスト政権軍はミサイルや空爆で2114棟の住宅を破壊し、3,242人が家を失いました。これらの人々のほとんどは難民として登録されており、一時的な難民キャンプで生活しています。

しかし、戦争による破壊とは別に、シオニスト政権は、定期的にパレスチナ人の住宅の破壊を行っています。シオニスト政権やその軍隊の安全保障とは、パレスチナ人の住宅を破壊するための口実に過ぎません。たとえば、シオニスト政権はパレスチナの武装グループの影響を守るための施設を作ることを口実に、ラファの境界線に分離壁などを作り、またラファの一部地域は占領されまし

た。分離壁の建設地にあったパレスチナ人の家は全て、シオニスト政権のブルドーザーで破壊され、そのほかここに隣接した建物も、この建設物の安全地帯を作るとして破壊されました。

国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチは、2004年に報告の中で、ラファにおける家の破壊の中で、家を失ったガザ地区のパレスチナ人の数は1マン6千人であると発表しています。アメリカ人の平和活動家は、2003年、ブルドーザーによる破壊活動に抗議する中で殺害されました。2000年に発生したパレスチナ人の蜂起・第2次インティファダでは、シオニスト政権は対テロ作戦を口実に、シオニスト政権に反対する武装グループと関係のあるとされる人物3,000人の住宅や、そこが武装グループによって使用されているという建物をブルドーザーや爆弾により破壊しました。国連はパレスチナの人々の家を破壊するシオニスト政権の政策を集団に対する罰則とみなし、これを人権に反しているとししました。

一方、ガザ地区の住民にとって、居住における問題はこれだけではありません。シオニスト政権によるガザ封鎖も、この問題を大きくしています。シオニスト政権はこれまで、ガザ地区に建築資材を搬入するのを厳しく制限してきました。このため、ガザの人々にとって、破壊された場所の復興や、新たな建設は困難であり、時に不可能だったのです。シオニスト政権の関係者は、武装グループはトンネルをつくり、シオニスト政権を脅かすために建築資材を使用すると主張しています。国連は報告の中で、建築資材の極端な欠乏により、ガザの復興プロセスが停止し、国連はガザの人々に対して適切な居住施設を提供できないとしています。このため、ガザ地区の人口の増加と、この地区の住居に対する高い需要により、パレスチナの人々が居住できる場所は規則的に少なくなっています。住居の数の減少はガザの人々にとって、ほかの問題も引き起こしています。住居に対する高い需要に対して、その提供が制限されていることで、ガザ地区の家賃は昨年比べて、4倍に増加しています。

ガザ地区の住宅の密集状態は、この地区全体の人口密度の高さを表す最小のモデルとなっています。統計はガザ地区の170万人の生活について、もしガザ地区の1平方キロメートルに生活する人の数をほかの国のそれと比較した場合、ガザ地区は人口の点で、世界で最も人口密度が高い地域となっています。2014年、ガザ地区では1平方キロメートルあたり、5,046人が生活しています。この地域の中心、つまりガザの町は、人口密度の点で世界第6位の都市となっています。またガザの人口増加率は世界最大となっています。2008年から2009年の期間のみ、ガザの出生率は5.2%にとどまりました。

ガザ地区の人口は、若年層の多さが特徴となっています。ガザ地区の人口の43.5%は14歳以下となっています。この地区に住んでいる25歳から54歳の人口は、全人口のおよそ30%のみとなっています。彼らは職や住居を求め、また結婚し家庭を築きたいと考えています。一方、ガザ地区の人口で3番目に多いグループは15歳から24歳の若年層です。このグループのほとんどは安全や食料、衛生や住居などの基本的な需要のほかに、もっとも大きな需要である教育的な需要も抱えています。

多くの有識者が、シオニスト政権はもしパレスチナ人を村から追い出し、都市に人口を集中させるようにすれば、パレスチナ人を管理する上でより大きな成功を収めると考えており、この政策により、ガザの都市部の住民の割合は、2011年に74%に達した、としています。また、ガザ地区の

人口に関する特性という点で、宗教的な点をあげることができます。ガザ地区の住民の99.3%はイスラム教徒で、スンニー派が多数派となっています。また、キリスト教徒も総人口のうち0.7%を占めています。

<http://bit.ly/1qz0sBL>

ガザ地区の実態（3）

（イランラジオ放送 2014.09.08（月）18:18）

就職は、ガザ地区とヨルダン川西岸地域の人々の共通の関心事です。この2つの地域の人口が全体的に若いことから、この2つの地域で職を求める人々が大量に生じています。この地域、特にガザ地区の人口増加率は、この地域における雇用の増加の割合をはるかに上回っています。このため、ガザ地区とヨルダン川西岸で職がない人々の数と、この地域で職を持つ人々の数の差は、日々拡大しているのです。2012年、15歳以上のヨルダン川西岸地域の男性の失業率はおよそ17%で、一方、15歳以上のガザ地区の男性の失業率はおよそ27%であると発表されました。ガザ地区に住む15歳から24歳の男性を対象にした、期間的な統計では、失業率はおよそ52%に達しています。また、2013年に行われた、同じ年齢層の女性に関する統計では、失業率は86%以上とされています。さらに、2012年から2013年の間だけで、ガザ地区の失業率はおよそ6%も上昇しました。

シオニスト政権イスラエルは2007年からガザ封鎖を行い、これによりこの地域の雇用市場は崩壊することになりました。生活必需品の欠乏や不足により一部の産業は活動停止となり、パレスチナ人の労働者は失業者と化しています。さらに、シオニスト政権がパレスチナ人労働者に対し、検問所を封鎖した時期には、ガザ地区のパレスチナ人労働者の14%が職を失いました。しかし、彼らに代わって、ヨルダン川西岸のパレスチナ人が、シオニスト政権の占領地の労働市場に生じた空白を埋めるようになっています。

2012年の時点では、ヨルダン川西岸地域に住む8万人がシオニスト政権の占領地で就労していました。しかし、これはパレスチナの人々にとって、大きな問題を引き起こしています。国際労働機関は2014年の年次報告で、シオニスト政権の占領地で働くパレスチナ人の数が、正式に認可されている数よりもはるかに多いとしました。このことは、多くのパレスチナ人が労働許可なく、保険や公正な給与の保証なしに、シオニスト占領地の雇用者のために就労していることを示しています。

発表された統計によりますと、占領地、ヨルダン川西岸地域、ガザ地区のいずれの地域でも、パレスチナ人の賃金が減少していることがわかります。2011年のガザ地区のパレスチナ人の賃金は、2006年のそれと比べると、11%以上低くなっています。実際、パレスチナの人々が現在手にしている賃金は、1999年以前、第2次インテッファダの時代以前の賃金と比べても、低くなっています。失業と賃金の減少とあいまって、ガザ地区の住民の多くは生活する上で外国からの支援に頼らざるを得なくなっています。

ガザ地区の経済やシオニスト占領地の雇用の割合に影響を及ぼしている要因のひとつは、ガザ地

区交通や通信におけるインフラの状況です。実際、ガザ地区の通信環境の不備は、この地区の経済発展に対する深刻な障害のひとつとみなされています。ガザ地区の道路は、シオニスト政権軍の度重なる爆撃やミサイル攻撃により、被害を受けています。ガザ地区で最もよく知られた重要な道路は、ガザ地区全体を縦断し、北はシオニスト占領地との国境から延び、南部ラファのエジプト国境に通じるサラフッディーン街道ですが、この街道はシオニスト政権の攻撃は免れたものの、また高い気温や湿度などといった自然条件により消耗しており、長年補修されないまま放置されています。

道路は、ガザ内部の物資の移送にとって最適で最も利用できる手段です。ガザの人々は、鉄道の利用が出来ない状態にあります。1948年以前は、ガザ地区の南北に鉄道が走っており、北部は占領地の鉄道、そして南部ではエジプトに通じていました。しかし、今日ガザ地区内にある線路を、列車が走ることはありません。

鉄道のほか、ガザ地区の人々は空路も使えなくなっています。ガザ地区南部・ラファ近郊のアラファト国際空港は、1998年に締結されたワイリバー合意により開港し、ガザの人々は空港が使えるようになりました。しかし2年後、シオニスト政権はこの空港を閉鎖しました。シオニスト政権は2001年に、2000年から始まったパレスチナ人の蜂起、アルアクサー・インティファダに対する報復として、この空港の管制塔とレーダーを破壊しました。また、この空港の滑走路も、シオニスト政権のブルドーザーによって破壊されました。

さらに、ガザ地区にはハンユニス郊外にも、グシュカティフ空港という空港があります。この空港の名前は、付近にあるシオニスト入植地の名前からつけられています。この空港は、国連がハンユニス郊外に建設したパレスチナ難民キャンプの近郊にあります。この空港の滑走路は、まだ残ってはいますが、予算がなく設備が整っていないことから、きちんとした形で整備されていないため、この空港を利用することはできません。いずれにせよ、シオニスト政権によるガザ地区上空の飛行制限により、長年の間、この空港には、人道支援物資を移送するわずかな航空機を除いて、飛行機は発着していません。シオニスト政権はオスロ合意に基づき、ガザ地区上空の飛行を制限・禁止しています。

40キロの海岸線を持つガザ地区は、地中海岸に位置しており、海上輸送によって必要とするものを満たし、経済を活性化することができます。しかし、シオニスト政権は海上封鎖を行い、ガザ地区の人々の海上輸送を制限しています。ガザ地区には、2000年から唯一の港であるガザ港の開港計画が始まりましたが、この計画はアルアクサー・インティファダに対するシオニスト政権の戦闘機の空爆で中止されました。シオニスト政権がガザ地区の海上封鎖を行った2007年から、この地域の人々は海洋資源や世界に通じる海上交通の利用ができなくなっています。また、シオニスト政権の艦船の砲撃を受けることから、漁業活動はガザ地区の人々にとって、海岸付近の範囲であっても大変危険な行為とされています。この封鎖による影響により、ガザ地区の人々だけでなく、外国の船舶がガザ港に寄港することもできないのです。

シオニスト政権はこれらの制限により、ガザの人々の居住、最終的には彼らが生活を続けることを困難にし、これを不可能にしようとしています。しかし、パレスチナ人は数世代に渡りこうした

困難な状況の中で生活し、青空刑務所と呼ばれているこの地区の外部とつながる手段を獲得して来ました。ガザ地区の地下トンネルは、ガザの人々がこの地区の外部とつながる手段となっています。ガザの人々は、この数千にも上る地下トンネルを通じて、シオニスト政権の封鎖のため確保できない必要な物資を入手しています。今日、トンネルの掘削や管理はガザの経済において、重要な業務のひとつとなっています。これらのトンネルを通じてガザ地区にもたらされる物資の量に注目すると、トンネルによる商業活動はガザ地区全体の商業活動の3分の1を占めていると言えるのです。

<http://bit.ly/WF5Rgx>

「対テロ国際連帯に関するアメリカの発言は表面的なものだ」

(イランラジオ日本語放送 2014.09.15 21:02)

イランイスラム革命最高指導者のハーメネイー師が、テロ組織「イラクとシャームのイスラム国」と闘うための国際連帯の結成に関するアメリカ高官の発言は、明確な意図を持った表面的で口先だけのものだとししました。

ハーメネイー師は、15日月曜朝、入院先の病院を退院する際、IRIBのインタビューで、テロ組織ISIS「イラクとシャームのイスラム国」対策の国際連帯にイランを招くことに関する、アメリカの政府高官の主張や立場、行動の欺瞞、それらの間の矛盾に触れ、イラクで行われ、ISISを掃討した動きは、アメリカの活動の結果ではなく、イラクの人々、政府軍、民兵の活動の賜物であり、アメリカも、またISISも、その事実を知っていると強調しました。

また、「ISISへの対策にイランを招待しない」としたアメリカの国務長官と国務省報道官の発言に触れ、「集団の誤った行動へのイランの参加にアメリカが失望することは、イランにとって誇りの源だ」と語りました。

さらに、ISIS対策に関するアメリカの欺瞞の裏側にあるものについて、「ISISがイラクを激しく攻撃していた頃、アメリカの駐イラク大使は、イランの駐イラク大使に、両国が、このテロ組織に関して調整を取り、協議するための会合を開くよう求めた」と語りました。

ハーメネイー師は、「私はそれに反対し、この問題に関して、イランはアメリカに同調しないと。それは、彼らが、穢れた目的とやり方を持っているため、そのような状況の中で、イランがアメリカと協力するはずはない」と述べました。

また、数日前のアメリカ国務長官の発言と、ISIS対策の連帯にイランを招待しないとした表明に触れ、「その国務長官自身が、少し前、自ら、イランの外務大臣に対し、このテロ組織への対策に協力するよう要請してきた」と語りました。

ハーメネイー師は、「アメリカは、以前にも、大きく騒ぎ立て、数カ国と共に、対シリアの連合を作ったが、何もなしえなかった。イラクに関して、同じ状況になるだろう」と強調しました。

また、イラクの民兵と政府軍は、テロ組織にダメージを与え続けるだろうと強調し、「実際、アメリカは、パキスタンで行ったのと同じように、独立政府と強力な軍隊の存在にも拘らず、政府の許可なく、その国の領土に侵入し、各地を爆撃するための口実を探しており、イラクとシリアでも、同じことをしようとしている」と語りました。

<http://bit.ly/1oTbxLA>